

れき じん

となん歴史民だより vol.58

Morioka tonan history and folklore museum

平成 31 年 3 月 31 日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



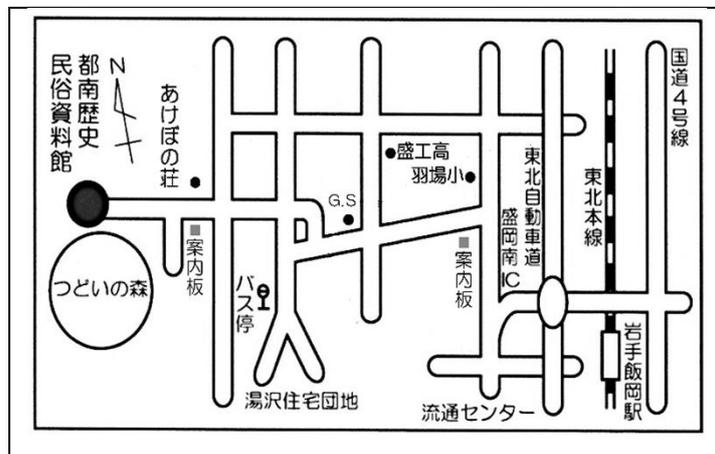
花巻人形 内裏雛 (鎌田隆氏所蔵)

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 第9回旧暦ひなまつり展
- かけはしの会活動報告
- 平成31年度企画展のご案内
- 資料は語る(58)
- 盛岡市所在
指定・登録文化財紹介(58)
- となんの先人①

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間

午前9時から
午後4時まで

入館料

無 料

休館日

月曜日
(休日に当たるときは、
直近の平日)、年末年始



市民参加展 鎌田コレクション



第9回旧暦ひなまつり展開催のお知らせ

盛岡市都南歴史民俗資料館では、春の訪れを楽しむため、毎年旧暦の時期に合わせてひなまつり展を開催しております。今年度も盛岡市内在住の収集家鎌田隆氏の豊富なコレクションを展示紹介いたします。

●雛祭りのはじまり

雛祭りは、ままごと遊びのような「ひひな遊び」と、^{かたしろ}形代や^{ひとがた}人形を用い^{けが}穢れを^{はら}祓う信仰行事がいつの間にか結びついて始まりました。

「ひひな遊び」は、貴族の女兒の人形遊びで、季節に関係なく行なわれていました。平安時代にはすでにあり、『源氏物語』中にも、幼い若紫（のちの紫の上）が元旦にたくさんの道具を飾り並べ、小さな御殿を部屋に広げ、紙で作った人形である「ひひな」を源氏に見立てて参内のまねをさせる様子が描かれています。

わが国では、身を清める方法として、心身の穢れや罪、厄を形代（紙やわらなどで作った人形）に託し、それを川や海に流すことが行なわれてきました。なかでも旧暦三月の^{じょうし}上巳の日に行なう^{はらえ}上巳の祓が、雛祭りの源流といわれています。

●雛祭りの浸透

はじめは公家の間で内々に行なわれていた雛祭りは、江戸幕府が三月三日の上巳を含む五節句を公式儀礼の日と定めたことにより、正式な節句行事として武家にも定着しました。さらに雛祭りは、次第に庶民の生活にも浸透していきました。

民間の雛人形が年々派手になったため、幕府は贅沢を禁止するお触れをたびたび出し、雛人形等は8寸（約24cm）以上の大きさにしてはいけない、などと決めました。江戸時代を通して同様の禁令が繰り返し出されたものの、無視され、大きく豪華な人形や道具が出回りました。そこで寛政2年（1790）、江戸では「雛市改め」が行なわれました。大型の人形や道具は摘発の対象になるため、それに対抗するべく、民間の業者たちは小さく地味でありながらも手間暇をかけ製作した高級な^{けし}茶子雛や極小の雛道具を売り出しました。

雛祭りが女子の誕生を祝う行事になり、現在のような形を整えるのは18世紀中頃のことでした。明治時代に入り、生活様式の変化等により一時衰退しますが、世間の慣習は根強く、再び盛んになります。現代でも各地で毎年盛大に雛祭りイベントが催され、たくさんの人々を魅了しています。

盛岡市都南歴史民俗資料館 市民参加展
鎌田コレクション

第九回 旧暦ひなまつり展

平成31年3月16日(土)~
4月21日(日)

【開館時間】9~16時 【入館料】無料
【休館日】月曜日(祝日の場合は翌平日)
【会場】盛岡市都南歴史民俗資料館

盛岡市都南歴史民俗資料館
場所：盛岡市濠沢 1-1-38 (都南つどいの森内)
連絡：019-638-7228 (TEL/Fax)

●都南地域の雛祭り

都南地域では、節句である3月3日には雛人形を飾り、白酒や甘酒、花饅頭^{まんじゅう}やあられ、餅、きりせんしょなどを供えていました。地主の家などでは大きい雛壇に本格的な人形や立派な調度品を飾りましたが、一般家庭では、花巻人形を飾っていました。

花巻人形は、江戸時代から花巻で作られていた土人形で、京都の伏見人形、仙台の堤人形の影響を受けて独自の発展を遂げました。安価であったため広く一般に普及し、内裏雛や縁起物、歴史上の人物、能をモチーフにしたものなど、さまざまな種類が作られました。鮮やかな彩色がみられ、特に赤色が多用されています。この赤色の上に描かれた梅や桜、牡丹などの花柄が花巻人形を華やかに彩り、また特徴付けています。

参考：是澤博昭『決定版 日本の雛人形 江戸・明治の雛と道具六〇選』淡交社、2013年
花巻市博物館 第5回企画展図録『花巻人形と東北の土人形』花巻市博物館、2006年



「となん・かけはしの会」活動報告

当館を事務局とする「となん・かけはしの会」の活動である、平成30年度第五回茶話会は、「盛岡の神社について」と題して、去る1月12日（土）に開催されました。今回の講師を務めたのは、かけはしの会会員の柴伸弥氏です。

柴氏がご自分の足で調査された、市内の様々な神社の見所などについて、豊富な写真を元にお話し頂き、聴講された会員の皆さんにも大好評でした。この場をお借りし、柴様に御礼申し上げます。

なお、「となん・かけはしの会」では、随時会員を募集しております。主な活動は、①茶話会（年6回の講座）②当館事業への協力③史跡・文化財巡り（年1回）です。歴史好きな方はぜひご参加ください。お問い合わせは、盛岡市都南歴史民俗資料館 019-638-7228 まで。

平成31年度企画展(予定)のご案内

市民参加展「南部鉄器の由来とその現状」

2019年6月8日（土）～8月4日（日）

南部鉄器の由来について、また現在の状況について、鎌田隆氏所蔵の南部鉄器を通して紹介します。

企画展「都南の近代教育」

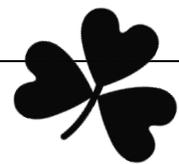
2019年9月28日（土）～12月15日（日）

学制以降の都南地区の各学校の歴史を紹介し、館所蔵の近代教科書を展示します。

市民参加展「鎌田コレクション 第10回旧暦ひなまつり展」

2020年3月14日（土）～4月19日（日）

旧暦の時期に合わせて鎌田氏所蔵の雛人形や花巻人形を展示します。





【貧乏徳利】

口が小さく胴がふくらんだ陶器製の容器で、胴部には店名、屋号、酒銘、地名、電話番号などが書かれている。

酒屋が小売用容器として貸し出したもので、別名を貸徳利または通徳利ともいう。客はこの容器に購入した酒や醤油、油などを入れてもらい、持ち帰り、次に購入する際に持参して再利用していた。

江戸時代中期に酒屋から酒を買ってきて飲むことが一般的になり、市中に広まった。明治時代には鉄道が敷かれたことにより農山漁村にまで普及し、大正末期にガラス瓶が普及するまで使用されていた。

国指定天然記念物



盛岡石割サクラ

藩政時代に藩の重臣、北氏の屋敷があった盛岡地方裁判所の前庭にあり、巨大な花崗岩の割れ目に生育したことから、この名称が付けられました。明治9年(1876)、明治天皇の東北地方御巡幸の際、県庁吏員田代俊二がこのサクラを岩と共に「桜雲石」として披露し、有名になりました。また、岩手県内で国指定第1号の天然記念物という記念すべき指定物件です。

サクラの種類はエドヒガン(花色からシロヒガンともいう)で推定樹齢は360年以上です。

参考文献：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)

となんの先人① 鎌津田 甚六

鎌津田甚六は、鹿妻穴堰を開鑿した鉾山師である。藩の許しを得て、二年の歳月を費やし、雫石川にせり出した剣長根と呼ばれる岩山をくり抜いて水路を通した。穴堰用水は、都南地区を含む盛岡市、矢巾町、紫波町の水田約五〇〇〇ヘクタールを潤し、同地域を県内有数の穀倉地帯にした。

穴口開鑿年については、慶安年中説や寛文年中説があったが、現在では慶長四年(一五九九)竣工が定説となっている。

生没年は不明で、出身地は諸説あり、都南地区の下飯岡村、丹波国、近江国、佐渡のほか、「旧鎌津田村(現岩泉町釜津田)の者か」とする文書もある。謎の多い人物ではあるが、昭和三十

九年(一九六四)に東北社会経済史学者森嘉兵衛により発見された宮古市の「刈屋家文書」により慶長年中に実在していたことが証明された。また、佐藤実氏は花巻市大迫町に、甚六という祖先の言い伝えが残る鎌津田家があることをつきとめた。

地元有志らは、甚六の名を後世に伝えるべく、大正二年(一九一三)六月十二日に、鹿妻穴堰開鑿記念碑を建立した。

昭和四十四年(一九六九)、施設整備ならびに近代化のため甚六開鑿と伝えられる取水口穴堰は取り壊された。しかし、現代の技術者から見ても驚くほど絶好の場所に取水口が設けられており、甚六が一流の土木技術者であったことを裏付けていたという。

参考文献 『都南村誌』(都南村誌編集委員会、一九七四)

『鎌津田甚六』(鹿妻穴堰土地改良区、一九七〇)

『鎌津田甚六集』(佐藤実、一九七九)

『北上川』(岩手放送株式会社、一九九五)